

## 私を感じた韓国

五戸町立五戸中学校 2年 川崎 \*

私は海外派遣で、7月23日から27日まで韓国の沃川郡とソウル市に訪問させていただきました。

韓国に行って最初に驚いたことは、車の車線のことです。韓国は日本に近い国だから、てっきり左車線だと思っていましたが、アメリカなどと同じ右車線だったことにびっくりしました。だから、初日は乗り口が逆なことや右車線であることに違和感を覚えました。

次に驚いたことは料理です。色々な料理を食べましたが、一番印象に残っているのは、代表的な料理であるキムチでした。普段から辛いものを食べている韓国人にとっては、日本でいう漬物感覚で食べているのかもしれませんが、辛いものに慣れていない私たちにとっては、すごく辛くて食べるにも一苦労でした。キムチ以外にも辛い料理があり、ピリ辛いものや激辛いものまで色々あり、大半のものが辛かったです。こんなに辛い料理なのに、韓国人の人は水も飲まず、美味しそうに食べている姿に、私は驚きを隠しきれませんでした。

料理以外の食文化にも驚きがたくさんありました。食器が木製ではなく、すべて金属製であったことにもびっくりしましたが、何よりも驚いたのが食事のマナーについてです。

私は幼い頃から食器は持って食べるものと教えられてきましたが、韓国では周りを見ても食器を持って食べている人はいませんでした。すると、通訳の人から「韓国では昔から食器を持たない習慣があって、持つことは逆にマナー違反になるんだよ」と教えられました。近くの国なのに、全く正反対の文化があることにびっくりしました。だから他のマナーでも日本と違いがないか調べてみたいと興味をもちました。

韓国人との交流は韓国語がしゃべれないため不安でした。しかし、言葉が通じなくてもジェスチャーや簡単な英語を使うと、相手が言いたいことを理解できるし、自分が伝えたいことを伝えることができました。

今回のように違う国の人ともコミュニケーションをとることができたので、外国の方との交流に少し自信をつけることができました。今回の韓国訪問では文化の違いを体験できてとても勉強になりました。また韓国に行って色々なことを勉強したいと思います。

## 「今だからこそ韓国と日本の同世代のみんなに伝えたいこと」

奈良教育大学附属中学校 2年 青野 真\*

私が通っている奈良教育大学附属中学校では、毎年を試みとして韓国の公州大学校附設中学校と相互訪問交流を行っています。初めて行った韓国。そこには私の知らない言葉、文化などが沢山あり、多くの事を感じ、学ぶことが出来ました。その様な沢山の経験の中から私が特に印象に残ったことを紹介します。

一つ目は、韓国人の日本に対する反日感情についてです。韓国に滞在している間、私は反日的な方に一度も出あいませんでした。むしろ好意的に受け入れていただいたと思います。日韓関係が悪いのはあくまでも政治的側面だけなのではないかと感じました。

二つ目は、英語の大切さです。片言の英語しか話せない私は、伝えたいことを伝えることが出来ないもどかしさを体験しました。そして、他国の人と会話する時に、気持ちを表現し、相手を理解するために、世界の公用語である英語をもっと勉強し、自由に話せるようになりたいと強く思いました。

三つ目は、音楽についてです。私はピアノが得意なので、今回の訪韓の目標として、音楽で交流したいと考えていました。相手校で歓迎会を開いて下さった時に、私は歌の伴奏と、その他に短い曲を弾きました。歌は日本人のメンバーだけで歌う予定だったのに、歌っているうちに韓国の学生達も一緒に歌ってくれたのです。音楽は国境も時代をも超えると言われているのは本当でした。たとえ言語が違い、言葉が通じなかったとしても、心が通じ合える。そんな音楽の力の素晴らしさを実感しました。

訪韓を通して私が強く思ったことは、他国とわかり合うことの難しさです。日本と韓国はとても近い国です。古くから歴史的にも、距離的にも、最も近い位置にあるので、似ているところが多くあります。

しかし、似ているからこそお互いの違いを認めあうことが難しいのではないのでしょうか。私が感じただけでも、韓国人と日本人の気質の違いや、常識や習慣の違いが多くありました。日本と韓国はとても似ているけれども全く違う国なのだということを意識し、互いにわかり合う努力をすることが必要なのではないのでしょうか。日本には韓国に対して悪い印象を持っている方が少なくないと思います。

しかし、その印象のほとんどは相手国を中傷し合うメディアによるものではないのでしょうか。私も今回訪韓していなければ、韓国人は皆反日感情を抱いている、と勘違いをしていたかもしれません。外交関係のこともまるで他人事のように感じていたかもしれません。

しかし、実際に韓国に行き、見て、聞いて、良いところも悪いところも感じ、本当の韓国を垣間見て、そして日韓関係について真剣に考えることが出来ました。中学生の私が国家間の外交問題について出来ることはないと思います。

では私が日韓関係を改善するために出来ることがあるのでしょうか。それは小さな一歩ですが、韓国へ行ったことのない周りの人達に、私の感じた本当の韓国を伝えていくことだと思っています。

## 韓国旅行に行って感じたこと

青山学院中等部 3年 秋谷 麻\*

私は今年の夏休みに初めて韓国旅行に行きました。韓国に行って言葉が違う中、会話が通じるか、また意思の疎通ができるのか不安でした。しかし実際はその様な不安は全く必要ありませんでした。

私は韓国市内で一番賑やかな明洞地域のホテルに滞在しました。韓国での食事はホテル近辺のあらゆる韓国料理を食べました。お店に入ると、日本人ですか？と店員さんに聞かれました。はい、と答えるとその後の会話は全て日本語で話してくれました。韓国人は皆勉強家で日本語がとても上手でした。中国人のお客様には中国語で話していたのを聞きました。また、日本で食べる韓国料理と少し違いがあり、料理の食べ方や食の歴史を教えてくださいました。私は韓国語のクラスをとっているのを知っている単語や今まで習った文法も少し分かったのがとても嬉しかったです。

一番印象に残ったのは、買い物に行った時の事でした。私と母は初めての土地で土地感覚がなく、自分達の思っていた方向と全く違う方向に歩いていました。地図を持って途方にくれていると私より少し年上の男性が話しかけて来てくれました。私の母が英語で行きたい場所を聞くと、スマートフォンの地図アプリを使いながら現在地を確認してくれて行き方を教えてくださいました。お礼を言って別れた後彼は私達を心配して見ていてくれたようです。まだ迷っていた私達を見て、走って追いかけて来てくれてまた教えてくださいました。韓国の方は外国人に対してとても親切で「わかり合いたい」という気持ちを感じました。

日本と韓国との間には歴史的背景でまだまだ解決しなくてはならない問題がたくさんあります。ニュースを見ていて、近づいてはまた遠くなる関係にとっても心を痛めています。でも未来を生きる私達若者は、その歴史問題を解決しながらも、これからの未来に向けて、もっとわかり合える関係を築き上げるように努力していきたいと思います。韓国人々と触れ合って、日本人に対してとてもあたたかい気持ちを感じられました。特に同年代の人に対してはこれからもっと国際交流を深める機会を持ちながら、同じアジアの国として助けあえる存在になると思いました。

## 私が見た、感じた、理解した韓国

京都国際中学校 2年生 中藪 雪\*

韓国における2泊3日の語学研修を通じて、実感し、理解したことを述べます。

まず、韓国のイメージは、韓国は人も生活も日本とよく似ている国だと思っていました。具体的には、温かい人が多く、チマチョゴリを着て、お米を食べる。実際に、生活面では、日本との共通点もありました。目上の人を敬うことや家では靴を脱ぐことなどです。ところが、日本では普通の生活で着物を着る人もいますが、韓国ではチマチョゴリを着ている人はいませんでした。

そして、生活の違いよりもっと顕著だったのが、人の違いでした。研修中に、クラスで食事に行きました。韓国人の男の子に「何食べたい?」と聞かれたとき、私は「何でもいいよ」と答えました。すると、男の子がキムチチゲを注文してくれました。しかし、私は辛くて食べられませんでした。注文をした男の子は「ごめん。辛いのが食べれなかったんだ」と言いました。私はこの言葉を聞いて、韓国人と日本人の違いを見つけました。日本では自己主張の機会が多くありません。また、この男の子のように相手に対する気持ちをはっきり言う人もいません。しかし、この点は日本人が直すべき点であると思います。このように、韓国では相手にどう思われるかよりも、自分が思ったことを言うことの方が重視されていました。そして、人目を気にしない行動は頻繁に見られました。例えば、エレベーターの中で会話をする人、地下鉄で電話する人、街中で肩を組んで歩くカップルなど。

日本では、個人的な事柄を人前に出さない文化があります。自己と他者をはっきり区別し、何をするにも他人の目を意識します。では、韓国ではなぜ人目を気にしないのでしょうか。それは、人と人との距離が近いからだと思います。私が困っていた時、韓国人の友達は、問題が解決するまで付き添ってくれました。つまり、自己と他者の区別が明確でないため、他者のことを自分のことのように接するのではないかと感じました。

その他にも異なった点がありました。日本に対する意識です。大部分の韓国人が反日感情を持っていると考えました。しかし、出会った人たちは、みんな優しく接してくれました。韓国語を勉強していることを評価してくれる方がいたり、日本語で話しかけてくれる方もいました。韓国人と日本人ではなく、人と人として接してくれました。日本では、韓国人がみんな反日感情を持っていると考えている人が少なくありません。一部の情報を鵜呑みにして反韓感情を持っている人もいます。

この研修で、日韓の違いを理解できた私にできることは、その誤解を解くことです。日本と韓国は、隣国として、お互い協力しなければなりません。文化の異なる二国間が問題を解決するとき、相手を理解することが一番重要です。

私自身もこれまで以上に韓国に対する理解を深め、相互理解の助けになるよう努めたいです。

## 僕が感じた韓国

京都国際中学校 2年生 原田 雅\*

中学校に入学するまでは、韓国について知りませんでした。入学前に、母親が「雅斗のおじいちゃん是在日韓国人やったんだよ」という話を聞いて驚きました。その理由は、おじいちゃんに韓国人の雰囲気が無かったからです。おじいちゃんは結婚するときに帰化したそうです。そのため、お父さんも日本人として教育されていたのです。

初めて韓国を感じた行事は、入学式でした。国旗も違うし、先生が話している言葉も韓国語で、韓国の国民儀礼も生まれて初めて知りました。返事も「はい」ではなく「예」だと先生から教わりました。それでも、不思議なことに違和感はありませんでした。

学校が始まり、友達ができました。その中に僕と同じように朝鮮半島にルーツを持つ人がいました。しかし、僕とは違い、周りの友達は、自らが在日韓国人であるという自覚を持っていました。決定的な違いは名前です。僕は、日本国籍なので、「原田雅斗」という名前しかありません。自分の苗字が気になり、母親に聞くと、「うちの苗字は空なんだよ」と言いました。僕はそれから「空」という名前を使うようになりました。

学校では、言葉や文化だけではなく、歴史も教わっています。例えば、日本では歴史上有名な人物が、韓国では悪人のように扱われている点です。両親にその話をすると、「そんなことは学校で教えてもらってないし、知らなかった」と言っていました。

それから、先生が幼い頃、在日韓国人という理由で他の友達からいじめられたという話を聞きました。それを聞いて僕は、何でそれだけでいじめをするのかと腹が立ち、また悲しい気持ちになりました。

このように様々なことを知っていくうちに、この学校で学ぶ理由が少しずつわかってきたような気がします。それは、自分のルーツを理解して、自覚を持って生きていくことです。当初、周りの友達からは韓国にルーツを持たない日本人だと思われていました。この学校に来てなかったら、自分のルーツのことも韓国の歴史のことも、在日韓国人が受けた悲しみも、そして僕の存在を受け入れてくれた友達も知らずに過ごしていたと思います。

おじいちゃんやお父さんが学んだことのないことを僕がこの学校で学んでいることは意味のあることです。日本と韓国は歴史問題などで、良くない関係が続いています。まだまだ僕の知らないこともたくさんあるし、すぐに解決できないこともあります。けれども、僕がこの学校で受け入れてもらえたように、小さな関係がやがて大きな関係になり、国をも動かせるような力になると思います。

韓国にルーツを持つ日本人としては、どちら側の立場に立つことも難しいです。それでも、正確なことを知り、韓国と日本が良い関係になるように伝えていくことが僕の役目ではないかと思います。そして、いつか本当にお互いの歴史を許し合い、新しい関係を築いていければ良いと思います。

## 訪れてわかること

奈良教育大学附属中学校 2年 木村 和\*

今年の八月、学校行事の一つである韓国との相互訪問交流事業で、私は学校代表生徒として、韓国の公州を訪れました。二泊三日のホームステイでお世話になった韓国の中学生のパートナーはキム・チェドンという中学三年生でした。チェドンとたくさんのお話を話し、体験をしました。そのうちの二つの出来事が、今でも心に残っています。

一つ目は、自分の友達のおじいさんは韓国が植民地時代の時、日本に連れていかれたことを話してくれました。実は、私の友達のおじいさんも日本に連れてこられ、今も日本で過ごしていることを私も言いました。「なぜ韓国を支配したの?」と聞かれました。なぜ支配したのか、日本は領土が欲しかっただけなのか、何かしらの理由はあるはずだと思います。結局答えたのは、私にはそれはわからないけど少しずつ理解していこうと言い、約束をしました。

二つ目はホームステイ先の家でチェドンの家族たちと一緒にご飯を食べたことです。食べながら、お互いの家族のことを教え合いました。特にその中でも、おばあさんが一所懸命に日本語を話してくれたことを覚えています。おばあさんは植民地時代を生き抜いた人でした。そのおばあさんの姿は過去にどんなトラウマがあっても、挑戦している。それを見てもっといろんなことに挑戦しようと思わせてくれました。笑顔で話すその姿は、一生忘れられないものとなりました。私の韓国のイメージは、互いを非難している、日本の助けを求めようとしないなどの、いわゆるマイナスなことばかりでした。

しかし、今回の訪韓が、私のイメージをガラリと変えてくれました。韓国への非難的な考え方や、二つの国が互いに一方的に嫌っていると思っていたことが、実際は思い込みであり、そのような考え方が残っているからだと思いました。勘違いしていた自分自身のことを悔しく思います。ですから、相手のことを知ってから相手のことを考える。

何も知らないで相手のことについて、話すのは不公平です。国が違うからこそ、何かしらのことは学ばなければならぬと思います。実は訪韓前に一人の後輩から、「自分は韓国が苦手なのに、なぜ先輩は行くのですか。」と言われました。返せる言葉もなく、自分でもどうしてだろうと考えました。韓国から帰国してから伝えたい言葉がはっきりとしました。「自分の目で確かめたい。」と。言葉だけで伝わらないことがたくさんあるからです。やっぱり、自分で確かめることが一番大切ではないのでしょうか。交流のおかげで、どのメディアを探しても、見つけれないものを見てきたような気がします。互いを知り合い、認め合う場面に出会えたからです。視点を変えてみるのが大切だと思います。来年一月、今度はチェドンを迎えるとき、日本の魅力をたくさん紹介して精一杯お返ししたいです。奈良に帰るとき、チェドンに言いました。「나라에서 기다리고 있습니다! (奈良で待っています!)」

## 交流事業を通して

雲仙市立千々石中学校 3年 平野 彩\*

雲仙市と韓国の求礼郡は、日本と韓国で、それぞれ国立公園指定第1号の公園を有する都市であることから、平成19年5月18日に姉妹結縁を締結しました。市民同士の交流事業として、毎年中学生の海外派遣事業を行っています。

7月30日から8月3日の5日間、私は、雲仙市中学生姉妹都市交流事業に参加し、求礼郡と、韓国の首都ソウルを訪れました。今回、雲仙市中学生姉妹都市交流事業に参加させていただき、たくさんの思い出をつくることができました。

特に思い出に残っていることは、韓国求礼郡で体験したラフティングです。八人一組になって一つのボートに乗り、川下りをしました。他のボートと水のかげ合いをしたり、途中にある人口砂のところでダイビングしたことが楽しかったです。

ホームステイも思い出に残っています。最初は不安と緊張でドキドキだったけど、夜は友達と英語で会話をしたり、音楽を聞いたりして、とても楽しくすごしました。ホームステイ先で食べた韓国料理は、私のために少し辛さをひかえめにしてくれて、辛いのが苦手な私でもおいしく食べることができました。

韓国での四日目、ソウルタワーに行きました。すごく景色がきれいだったので思い出に残っています。夕方だったので夕日がしずむところが見れてとてもよかったです。

韓国での四泊五日の交流事業が終わると、次は求礼郡中学生の雲仙市訪問がありました。私達も一緒に宿泊して、レクリエーションをして楽しんだり、喜々津港でペーロンをしたりしました。

韓国の中学生ともとても仲良くなれて、男女関係なく遊んだり、しゃべったりしました。韓国語を教えてもらったり、日本語を教えたりして、言葉も少し話せるようになりました。

この事業を通して、文化の違いと言語の違いの大変さを改めて感じました。英語の重要性を感じ、もっと勉強して話せるようになりたいと思いました。

たくさんの思い出をつくることができ、たくさんの友達ができたので、韓国に行ってよかったなと思っています。

## 私を感じた韓国人

五戸町立五戸中学校 1年 平山 依\*

私は初めて韓国に行ってみて、感じたことが二つあります。

一つ目は、韓国人はとても明るく、優しい人ばかりだということです。どこに行ってもあたたかく迎え入れてくれたので、私は何よりもそのことがうれしかったです。しかも、コンビニなどに行った時も、「どこから来たの?」「何年生なの?」などと声をかけてくれたり、ハイタッチなどのコミュニケーションをとってくれたりして、韓国人は明るく優しい人ばかりなのだなあと思いました。

来年は、韓国人が日本に来るので、今度は私たちがあたたかく迎えてあげるようにしたいです。

二つ目は、韓国人も日本人もいい人ばかりなのに、いろいろな国際問題が起きるのだらうということです。こんなにいい人ばかりだったら、仲良くすればいいのにとおもいます。でも、歴史的なことがもあり、仲良くすることが困難なのだから、国際問題が起こるのだとおもいます。国際問題を起こしても何一ついい事などないのにと、私は思います。だから、これからは韓国人と交流をもっと深めてどんどん国際問題を減らしていけるようにしたいです。

私がびっくりしたことも、二つあります。

一つ目は、韓国人のほとんどの人が、日本語を話せるということです。私達日本人は韓国語を話せる人は、一握りだと思うけど、韓国人は、ほとんどの人が日本語を話せるので、すごいなあと思ったし、日本に興味をもってくれていることがうれしかったです。

二つ目は、何をやるにもみんな積極的なことです。中学生は私達があまりみんなの前でやりたくないことや、いやだと思ふことを積極的に人前に立ってやっていました。私も韓国人のように積極的になりたいと思いました。

これからは、失敗を恐れず、何事にも率先して取り組むようにしたいです。そして、いつでも気持ちを明るくもちたいです。

私が韓国に行っていた五日間は、今までの人生の中で行ったどの旅行よりもおもしろく、楽しかったので、最高の海外派遣でした。また、このような機会があったら、行ってみたいです。